

本資料は 2016 年 3 月 3 日にニューヨークで
発表されたメディア・リリースの翻訳版です。

2016 年 3 月 3 日

クレディ・スイス 第 8 回年次ヘッジファンド投資家動向調査の結果を発表

ニューヨーク、2016 年 3 月 3 日-クレディ・スイスは本日第 8 回目となる年次ヘッジファンド投資家動向調査の結果を発表しました。今回の調査結果は「投資方針の堅持」と題し、以下のトピックスを含む多くの分析を実施しました。合計で 369 の機関投資家から回答を頂きましたが、回答頂いた投資家のヘッジファンド投資額は総計 1.1 兆ドル（約 125 兆円、1 ドル=114 円換算、以下同様）に上ります。

- 業界の主要トレンドと予想
- ヘッジファンド業界の成長とパフォーマンスについての予想
- 投資家の戦略別選好と資産配分計画について

2016 年クレディ・スイス年次ヘッジファンド投資家動向調査結果の主要点は以下となります。

- ヘッジファンド業界の成長について投資家は全般的にポジティブに予想しており、2016 年中に**ヘッジファンド業界の運用資産額は 3.5%増加**すると考えています。仮にこの通りに推移すると、業界の運用資産は **3 兆ドル（約 342 兆円）** を越え、上位 25%の予想値では年末までに 3.2 兆ドル（約 365 兆円）となります。
- **87%の投資家**は今年のヘッジファンドへの資産配分を現状維持乃至増加させると回答しました。そうした回答を寄せた投資家の中では、保険会社が最もヘッジファンドへの資産配分をアンダーウエイトしています（他の機関投資家対比）ので、投資が伸びる余地があります。
- **株式マーケットニュートラル/ファンダメンタルズ**が 2016 年の調査では最も投資家に選好されており、ネットで 36%の需要超となりました。また、2015 年調査の 5 位から順位を上げました。**株式マーケットニュートラル/クオンツ**が第 2 位となり、ネットで 30%の需要超となりました（また昨年の 7 位から順位を上げました）。

クレディ・スイスのマネージング・ディレクターでキャピタル・サービス・グループのグローバル責任者であるロバート・レオナルドは次のように述べています。

「機関投資家は依然ヘッジファンドへの資産配分を行っており、今年の業界の更なる成長

に対して楽観的に考えています。グローバル市場において高いボラティリティが続く可能性がある中で、機関投資家がヘッジファンド・ポートフォリオをどのように位置付けているかについて、今回の調査では幾つかの興味深い洞察が見られます。」

「株式マーケット・ニュートラル、グローバル・マクロ、株式ロング/ショート（トレーディング）などへ投資家の関心が高まっていることは、2016年も困難な環境となると投資家が予想していることを示唆しています。新しい資産配分に当たって重要となる項目には、ネット・リターン、投資チームの経歴、そして他の投資との相関の低さが挙げられました。」

本調査では以下の内容も含まれます。

- 投資家からの回答では、**グローバル・マクロ/ディスクレショナリー**（ネット 29% 需要超）が3番目に多く選好されました。昨年の最上位からわずかに低下しましたが、依然投資家の間では主要な注目分野となっています。
- 投資家は、また**株式ロング・ショート/トレーディング**（ネット 21%需要超）と**株式ロング・ショート/ファンダメンタルズ**（ネット 18%需要超）をトップ5に位置付けました。株式ロング/ショート（トレーディング）に対する投資家の関心の増加には目を見張るものがあり、昨年の15位から上昇しました。
- **セクター特化：テクノロジー・メディア・通信**に特化した戦略（ネット 11%の需要超）がセクター別でトップとなった一方、**ヘルスケア**（ネット 7%の需要超）は昨年のトップから2位に低下しました。**金融**セクターへの関心は今年の調査では上昇しました（ネット 6%の需要超）。
- **地域別選好：先進欧州地域**（ネット 36%の需要超）への関心がこの1年で最も増加し、トップを維持しました。**アジア・パシフィック地域**（ネット 28%の需要超）と**グローバル**（ネット 26%の需要超）がそれに続き、更に**日本特化戦略**（ネット 17%の需要超）がその次となりました。
- **ヘッジファンド選定に際して重視する要因**：機関投資家がポートフォリオに組み入れるヘッジファンドを選定するに際して重視する要因のトップ3は、手数料控除後のリターン、運用者の経歴と運用チームの安定性、他の投資との無相関 となりました。その他では、透明性の程度、ポートフォリオ全般においてボラティリティを引き下げる力 が上げられました。
- **解約要因**：昨年のヘッジファンド解約の主要な理由として、ヘッジファンドへのポートフォリオにおける資産配分比率を減らしたため、と回答した投資家はわずか2%に留まりました。ほぼ半分の投資家が個別のマネージャーのパフォーマンス低迷が2015年における主要なヘッジファンド解約の理由と回答しました。また、25%

の投資家はトップダウンでの選好する投資戦略の変更が主要な理由と回答しました。

- **今年起こると予想されること**：2016年に潜在的に起こる可能性がある事象について尋ねたところ、空売りのスキルに改めて注目が集まること、資産・負債のミスマッチ、運用報酬削減圧力、新たな閉鎖ファンドの出現、**UCITS・リキッドオルタナティブ・共同投資ファンド**などの新たな投資ストラクチャーとの競合の増加などが挙げられました。

当調査は、業界屈指のグループの一つである、クレディ・スイス・ヘッジファンド・キャピタル・サービス・グループが実施しました。当該グループは、年金基金、財団・基金、コンサルタント、ファミリー・オフィス、ファンド・オブ・ファンズなどと強固なリレーションを有し、本調査の回答者は全ての地域に跨ります。

以上

クレディ・スイスについて

クレディ・スイスは、世界有数の銀行として、プライベート・バンキング、インベストメント・バンキング、アセット・マネジメント事業を世界中で展開しています。アドバイザー・サービス、包括的なソリューション、革新的な商品を、世界中の法人および富裕層個人顧客、またスイス国内の一般個人顧客に提供しています。クレディ・スイスは、世界50ヶ国以上に拠点を持ち、約48,200人の従業員を有しています。クレディ・スイスの本拠地はチューリッヒで、世界各地にある複数の事業法人で構成されています。親会社クレディ・スイス・グループ AG の株式 (CSGN) はスイスおよび米国預託証券 (CS) としてニューヨークで上場しています。日本語サイトは、<https://www.credit-suisse.com/jp/aboutus/ja/index.jsp>、グローバルサイトは、www.credit-suisse.com。

クレディ・スイス・プライム・サービスについて

クレディ・スイスのプライム・サービス部門では、ヘッジファンドや機関投資会社のニーズに合致した卓越したファイナンス及びオペレーションに関連したサービスを提供します。これらには、新たに運用を始める際に求められる各種サービスや投資対象商品へのアクセス、強固な顧客サービス、ファイナンス、投資家へのアクセス、リスク管理、貸付を含みます。プライム・サービス部門では、クレディ・スイスのインベストメント・バンキング、プライベート・バンキング及びアセット・マネジメントの各々の強みをお客様に提供します。また、ビジネス・パートナーとして、アイデアの実現に至るまでのギャップを埋めるべく業務を遂行しており、オルタナティブと伝統的資産運用の双方でお客様に選ばれるサービス・プロバイダーになるべく、コミットしています。クレディ・スイス・キャピタル・サービス・グループは、プライム・サービス部門を構成する一部であり、ヘッジファンド・マネージャーに対して、ヘッジファンドに資金を配分する様々な機関投資家（ファンド・オブ・ヘッジファンズ、ファミリー・オフィス、プライベート・バンク、財団、公的年金、企業年金を含みます）をご紹介する業務を担っています。